

研究・調査報告書

報告書番号	担当
412	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol drinking patterns and the risk of fatty liver in Japanese men. 日本人男性の飲酒パターンと脂肪肝リスクとの関連	
執筆者	
Hiramine Y, Imamura Y, Uto H, Koriyama C, Horiuchi M, Oketani M, Hosoyamada K, Kusano K, Ido A, Tsubouchi H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Gastroenterol. 2011 Apr;46(4):519-28.	
キーワード	
脂肪肝、飲酒量、非アルコール性脂肪肝、メタボリック症候群	
要 旨	
背景： アルコール摂取は脂肪肝 (FL) の主要原因であると考えられている。しかし最近の調査において、適度なアルコール摂取が FL に対して予防的作用を有することが示唆されている。そこで、FL とアルコール摂取の関連を明らかにするため、飲酒パターンと FL 有病率との関連を検討した。	
方法： 定期健診を受診した 9886 名の男性を対象とした。アンケートより得たアルコール摂取量に基づき、対象者を、非飲酒、軽度飲酒、中等度飲酒、大量飲酒 (アルコール摂取量として、それぞれ 0、<20、20 から 59、および ≥60 g/日) に分類した。FL は、超音波検査によって診断した。FL の独立した予測因子をロジスティック回帰分析により求めた。	
結果： FL の有病率と飲酒カテゴリーとの関連は、"U 字型曲線"を示した (非飲酒 44.7%、軽度飲酒 39.3%、中等度飲酒 35.9%、大量飲酒 40.1%: P < 0.001)。潜在的な交絡変数を調整した多変量解析の結果、FL の有病率は、肥満度指数および他の肥満関連疾患と性に関連し、アルコール摂取量と負に関連した (非飲酒に対するオッズ比 [OR] と 95% 信頼区間 [CI]; 軽度飲酒 OR 0.71, CI 0.59~0.86; 中等度飲酒 OR 0.55, CI 0.45~0.67; 大量飲酒 OR 0.44, CI 0.32~0.62)。さらに、飲酒パターン (頻度と量) との関連を分析したところ、FL の有病率はアルコール摂取頻度と負に関連していた (21 日以上/月の OR 0.62, CI 0.53~0.71)。摂取量との関連は認められなかった。	
結論： 男性におけるアルコール摂取は FL に対して予防的に働く可能性、およびアルコール摂取継続がこの予防的効果に寄与する可能性が示唆された。	